

平成22年度学習内容定着度調査分析（宇都宮市立清原北小学校3年）

【国語】★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
音声言語	話の内容を文脈に沿って正しく聞き取る力は、概ね身についている。	日常的に「話す、聞く」活動を取り入れ、話の要点の聞き取り方や内容を聞き取りやすい話し方について、継続して指導する。
説明的文章	「接続語の補充」や「文章全体の内容の理解」の正答率が高かった。「文脈に即した内容の理解」がやや身に付いていない。	各段落の要点を読み取っていくとともに、段落と段落の関係、段落の役割について考えさせる指導に力を入れていきたい。
文学的文章	「語句の補充」「語句の意味」は身についている。登場人物の心情を読み取る問題は正答率がやや低かった。	文脈に沿って、場面の様子や登場人物の気持ちを読み取っていく指導を続ける。
漢字	「幸福」の読みが市の平均を下回ったが、それ以外は高い正答率である。漢字については個人差が大きい。	新出漢字を学習する場合には、書き順や読み方だけでなく、漢字の成り立ちや意味、部首についても指導し、習得を図る。また、日常の表現指導（ノート、作文、日記、手紙）においても漢字を使う指導の徹底を図る。
言語事項	どの内容も市の平均を上回った。	国語辞典も積極的に活用させたり難解な語句や慣用句なども小まめに取り上げたりして、言葉に対する感覚を鋭くさせたい。
作文	招待する手紙に大切なことを盛り込んで書くことが良くできている。	具体的な場面に即して、招待状を書く経験を積み重ねさせていきたい。

【算数】★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	かけ算やわり算は概ね身についている。繰り上がり繰り下がりのあるたし算・引き算の計算問題の正答率が低かった。	繰り上がりや繰り下がりに注意して計算するよう、数多くの基礎的な課題を通して習熟を図る。
量と測定	「時刻と時間」「道のり」は概ね身についている。「長さの単位」「かさ」については理解がやや不十分であった。	日常生活で使われている長さやかさの単位を意識させながら、繰り返し指導をしていく。
図形	「三角形」「円」についてはよく理解している。「球」の直径を求める問題では市の平均は上回っているが、十分とはいえない。	図形を構成している用語を押さえながら、図形についての指導を繰り返し、知識・理解をさらに深めていく。
数量関係	「棒グラフ」のかき方が概ね身についている。	棒グラフでは、読み取るにしても描くにしても、ひと目盛りがいくつになるかが大切であることを、折に触れ指導していく。